

千住の知識人

—近代の学問を支えた千住の人々—



▲ 河合栄治郎

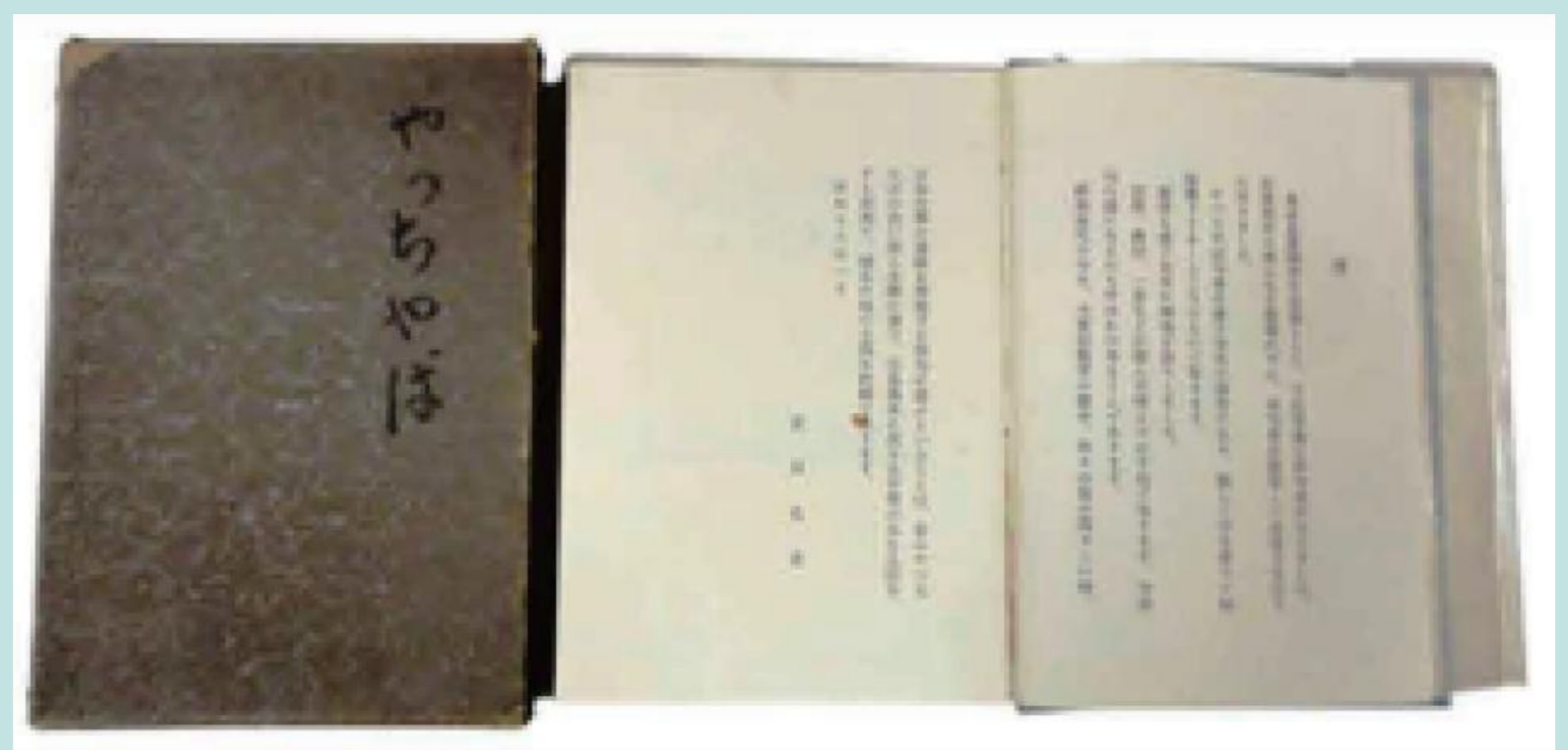


▲ 千住の森鷗外碑（千住1-30-8）

千住は多くの知識人を生み育てました。日本の経済史学を確立した内田銀蔵は、千住仲町の川魚問屋鮎与第十一代内田与兵衛の長男として明治5(1872)年に生まれました。明治の文豪 森林太郎（鷗外）も、父静男が南足立郡医となったことにともない、青年期の多くをここ千住で過ごしました。千住二丁目の酒屋徳島屋の二男として生まれた河合栄治郎も、東京帝京大学教授を勤め自由主義思想家として名を馳せました。千住河原町の野菜問屋 大喜の主人、為成菖蒲園も「ホトトギス」の高浜虚子らに師事し、多くの名作をのこしています。

きっせいどう 橘井堂医院について

明治12(1879)年、森鷗外の父・静男は、南足立郡医となり千住に転居。「橘井堂医院」を開業しました。鷗外（森林太郎）も度々実家を訪れています。卒業後は、千住に住み、父とともに医療活動を行いました。明治22(1889)年に結婚するまで、鷗外は千住で暮らしています。



▲ 為成菖蒲園の句集「やっちゃんば」（福島家文書）

※「やっちゃんば」とは、野菜の市場という意味。

為成菖蒲園は、やっちゃんばで知られる千住河原町の間屋主人だった。